

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価 (3月21日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①次期新学習指導要領の改訂に向けたカリキュラムの研究・編成に取り組む。 ②生徒の主体的に学ぶ意欲を引き出すとともに確かな学力を育む。	②アクティブラーニングの視点に基づく授業改善に取り組む。	②「授業改善プロジェクトチーム」が中心となり、アクティブラーニングの視点に基づく授業について研究を進める。また、職員研修会等を通じて研究成果を共有する。	②夏期講習や通年補習への参加率および生徒による授業評価の項目4、7、8における「かなり当てはまる」の回答率が前年度より向上したか。	②生徒による授業評価の結果では、Q4、7、8の項目では2～3ポイントの上昇が見られる。教材の工夫や授業改善が進んでいることがうかがえる。	②生徒による授業改善の分析からさらに授業改善つなげていく必要がある。また、生徒が主体的に取り組む、深い学びへとつなげていく研究が必要である。	②アクティブラーニングを研究課題とした公開授業に参加したが、積極的に生徒が活動していた。教員にとって授業改善は永遠の課題だが、今後も努力してほしい。	②「授業改善プロジェクト」と連携し、教員相互の授業参観や近隣への公開授業などを通して授業改善を進めた結果生徒による授業評価のポイントが上昇した。しかし、生徒が「主体的に取り組む」ということに関してはさらに研究が必要である。	②アクティブラーニングの視点に基づく授業改善、生徒が主体的に取り組む授業、深い学びにつながる授業について、職員間で認識を共有していく。
2 生徒指導・支援	①生徒会行事や委員会活動等の活性化を通して生徒の主体性を育む。 ②生徒個々に応じた組織的な支援体制を確立させるとともに充実させる。	①生徒会本部役員や各行事の実行委員等のリーダーシップを育む。 ②欠席しがちな生徒の状況・課題を把握し、その解決に向けて組織的に支援する。	①生徒の動きを先取りせず、生徒からの提案・意見を引き出し、生徒主体の活動を促す。 ②担任が把握した生徒に関する情報を学年会へ正確かつ迅速に伝達することにより、ケース会議等を適正な時期に開催し、生徒に有効な支援を行う。	①生徒会行事等において、生徒が主体となって運営できたか(アンケートを実施)。 ②長期欠席等を理由とする退学者や転学者の数が、前年度と比較して減ったか。	①教員対象の体育祭・文化祭アンケートをみると、8割以上の教員が生徒がリーダーシップを発揮し、主体的に仕事をしていたと答えている。 ②連続5日以上欠席生徒について学年やグループ等で情報を共有し、必要に応じてスクールカウンセラーにつなげるとともに継続的にケース会議を行う等、組織的な対応が進んでいる。長期欠席等を理由とする退学者や転学者の数が、前年度より減少した。	①今以上に生徒に主体性を持たせ、仕事を任せる。 ②長期欠席にかかわらず、気になる生徒の情報共有が十分とは言えなかった。生徒についての情報共有の機会を増やしていくとともに、生徒や保護者がもっと気軽にスクールカウンセラーを利用できるように働きかけていく。	①文化祭や体育祭などの学校行事は充実しており、生徒が主体的に運営していると感じられた。 ②不登校の子どもがいる保護者は大変な思いをしている。そのような保護者に対してのサポート体制充実も重要である。	①体育祭、文化祭を通して生徒の主体性が育っていることが実感できる。今後はさらに生徒のリーダーシップ、主体性を伸ばすことと、生徒が率先して行事の企画、運営を行えるようにしていく。 ②スクールカウンセラール来校日にスクールカウンセラーも含めてケース会議を開いたことで、関係者で情報の共有化を図りながら今後の目標を立てることができた。長期欠席以外の気になる生徒の情報の共有化と働きかけが十分とは言えなかった。	①生徒の失敗を恐れず、行事を任せること、そして忍耐強く生徒を見守っていく。 ②長期欠席者だけでなく気になる生徒についても組織的な支援体制のもと情報の共有化を図っていく。また、保護者へのサポート体制としてスクールカウンセラー等の活用を働きかけていく。

3	進路指導・支援	3年間を通じた体系的なキャリア教育を通して、進路意識の向上を図り、主体的に学ぶ意欲、豊かな人間性および社会性を育み、自己実現を支援する。	生徒一人ひとりが高い目標を持ち、その実現に向けて努力する姿勢を育む。	面談や進路通信、各説明会等を通して進路に関する情報提供に努める。また、生徒が第一志望の実現に向けて取り組めるようきめ細かい進路相談を行う。	生徒や保護者に進路情報の提供が適切に行われ、生徒の進路意識が向上し、一般受験の生徒の数が前年度と比較して増えたか。	3年生では、センター試験の受験者も20人以上増え、模擬試験も例年60人程度だったのが100人を超える生徒が挑戦し、目標はある程度達成できた。しかしまだ指定校や公募・AOを希望する生徒が激減したとは言い難い。	チャレンジせずに指定校推薦で決めてしまう生徒は多少減ったが、AOや公募で受験し不合格となり、その後一般受験に進んでも、受験に出遅れてうまくいかなかった生徒もいた。早くから意識させても、実現に向けて努力する力がまだ足りていない。より一層意識させるためには授業担当者や担任の協力が欠かせない。	指定校推薦やAO・公募で進路を早く決めてしまう生徒に、一般受験を目指している生徒が引っ張られ、安易に進路を決定しないよう今後も指導の工夫をお願いしたい。	今年度一年間の目標については、どの学年においてもある程度達成できた。推薦やAO入試で安易に進路先を決めてしまう生徒は減少したが、一方で一般受験をめざした結果、大学受験に失敗し短大に行かざるを得なかった生徒もいて、短大進学者が例年より増加し4年制大学の進学率が減少してしまった。	学校の成績は良いが、入試に実力が発揮できない生徒をどう見極めて進路指導していくかが難しい。キャリア教育の一層の充実に努め、自己の目標を早く明確にさせ、自分の進路実現に向けて努力を継続させるよう指導することが重要である。教科担当者や学年団の共通理解が欠かせない。
4	地域等との協働	地域と連携し、地域から信頼され、地域に開かれた学校づくりに取り組む。また、地域貢献等を通して、生徒の自己肯定感、自己有用感を高める。	①王子地区自治会と協働し、防災体制の確立と改善に努める。 ②地域自治会、学校および施設等との交流や連携をさらに深め、生徒が地域に貢献する機会を増やす。	①生徒の防災委員会を中心に王子地区防災訓練（避難所開設訓練）に積極的に参加できるよう委員会の体制を整える。 ②地域で行われる行事、ボランティア活動等の情報を生徒に提供し、積極的な参加を促す。	①地区防災訓練に積極的に参加できたか。また、参加体制を組むことができたか。 ②地域の行事等へ参加し、地域住民との連携や交流、および貢献ができたか（参加数調査およびアンケートを実施）。	①生徒防災委員会全員で王子地区防災訓練（避難所開設訓練）に参加する計画を立て、その一環として7月に行われた本校に設置の地区防災倉庫の点検に参加。また、同時に防災備蓄品の試食体験（飲料水の配布）も行った。しかし避難所開設訓練は予定が変更となり課業日の開催となったため、生徒の参加はかなわなかった。 ②地域の行事には、5つの文化系部活動が参加し、また運動系の2つの部活動も地域の小・中学生を対象としたスポーツ教室を開催し連携を深めることができた。	①来年度は例年通り地区との合同訓練に参加できると思われる。高校生としてより積極的に参加できるよう検討する。 ②今後は、地域の行事に積極的に参加するのみならず、連携の質も向上させていく。	②地域の行事に多くの部活動が参加している。地域が高齢化する中、住民も若いエネルギーが入ってくることを楽しみにしている。今後も学校と密接に連携を取っていきたい。	②地域の小・中学生を対象としたスポーツ教室を実施することができた。地域の公民館祭り、行事に参加、協力をすることができた。地域の公民館、自治会、老人会との連携を深め、積極的に生徒の参加を促すことが課題である。	②生徒の積極的な参加を促すために、地域における高校生の役割を十分に認識させ、そのことをより多くの生徒に伝えることが重要である。
5	学校管理 学校運営	生徒が安全・安心に、また快適に過ごせるよう教育環境の整備を進める。	施設・設備の老朽箇所、危険箇所の状況を把握し、その改善に取り組む。	生徒の整美委員会と協働して施設・設備の老朽箇所、危険箇所等のデータベースを作成し、生徒の意見を取り入れながら最適な教育環境づくりを進める。	データベースが作成でき、施設・設備の改善ができ、教育環境が改善できたか。	施設・設備の改善については、整美委員生徒からの意見聴取を行ったものの、データベース化の活動までには至っていない。委員の活動としてア)各階に掃除機のステーションを設置を行い、日頃の清掃活動に資することができた。イ)校舎周辺のゴミの清掃、ウ)ゴミ分別の啓発ポスターの作成などを行った。	特にトイレの状況、床の破損状況、ロッカーの状況などを中心にデータベースを作成し、生徒ともども教育環境の整備を進めたい。	施設の充実も学校の魅力の大きな要素である。雨漏りの修繕やトイレの改修は、引き続き強く要求していただきたい。	部室棟の雨漏り修理、蛍光灯のLED化の推進など多くの設備の改善が行われた。一方、懸念のトイレの改修は対症的で根本的な改善には至っていない。	老朽化の進むロッカーの交換をすべく予算措置を行った。また、引き続きトイレ改修の要望を強く行ってゆく。施設・設備の丁寧な使用、清掃などについて生徒が主体的に取り組むよう、委員会活動を工夫する。